



えど友ホームページ
http://www.edo-tomo.jp/

えど友

第93号
平成28年
(2016)
9 - 10

江戸東京博物館友の会会報

目次

江戸・東京 下町めぐり 日本橋蛸殻町……………1～2	竹内館長退任記念講演会……………6
友の会特別観覧会「大妖怪展」……………3	新館長就任のご挨拶……………7
江戸博クリップ「米国にありて江戸博を思う」……………3	「えど東京一景」(5) 一不忍池弁天堂……………7
えど友広小路……………4～5	友の会セミナー「花のお江戸を馬が行く」……………8
会員からの投稿「神宿る島」一宗像大社/新サークル・	友の会セミナー「将軍の印章」……………9
メンバー募集/えど友サークルだより/館蔵古文書翻刻	江戸名所図会を歩く…②⑦ [長青山梅窓院から笄橋] ……10
だより/友の会めも	催事案内/会員優待のお知らせ……………11～12



江戸・東京 下町めぐり 日本橋蛸殻町 ～江戸っ子かたぎの粋な町～

『えど友』88号で初めて「江戸・東京 下町めぐり」と題し日本橋小網町こあみちようを取り上げましたが、今回はそのお隣、日本橋蛸殻町かきがらちようです。友の会会員から江戸ばかりで、東京についての記述が少ないとのご意見を時折いただきます。ここでは明治以降、現在まで150年続く東京のあれこれにも触れてみたいと思います。

日本橋蛸殻町

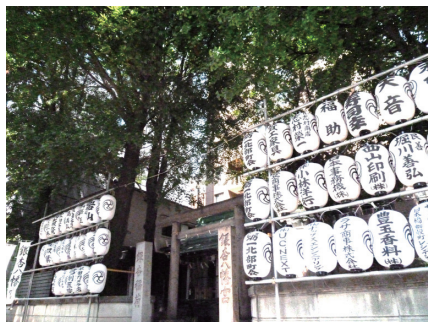
町名の由来は定かではありませんが、蛸殻町、小網町、小舟町こぶなちようなど、このあたり一帯は、昔は漁師たちの小網の干し場があり、牡蠣の殻の堆積した海浜であったらしいことが容易に想像できます。

蛸殻町は埋め立て当時から武家地として利用され、旗本・御家人その他の邸地で占められていましたので町名はありませんでした。維新後、上地されて市街地となり、古くからの俗称に従って蛸殻町の名が付けられました。

元大名が地主となった蛸殻町地区が大きく発展するきっかけとなったのは明治5年(1872)に架橋された鰐橋の出現といわれています。浜町・人形町通りに新道が開け、築地・八丁堀から新大橋方面へ直通す

るようになって大いに便利になり、発展を遂げていったのです。

蛸殻町は、キッコーマン、ヤマサなど醤油のメーカーや問屋、砂糖問屋、瀬戸物問屋が数多く集中する商人の町として繁栄してきました。



▲銀杏八幡宮

銀杏八幡宮

茅場町から人形町方面に向かった蛸殻町の五差路ごさちろのすぐ近く、新大橋通り沿いに「銀杏八幡宮いちろう」があります。

地元蛸殻町の氏神様です。境内には文字通り大きな銀杏の木が立っており、樹齢400年ともいわれています。

昭和の初め、この八幡様を引越させて、その後を商店街にしようという計画がありました。八幡様は蛸殻町三番地にあるので、「移転するなら、やっぱり三番地の空き地へ」となりました。これに道路の反対側の蛸殻町四番地から「今度は四番地のほうへよこしねえな」となったそうです。三番地も負けていません。「冗談言うねえ。銀杏は三番地に立っているんだ」と譲りません。すると四番地がすかさず切り返して、「よさねえか、いちろうの根は、四番地のほうへぐっと張っているんだぜ」。

結局、このもつれから八幡様の引越しは取りやめになってしまいました。銀杏八幡は以前と変わらぬその

場所に現在も鎮座しています。サトウハチローの『僕の東京地図』で実際にあった話として載っています。「渋いねえ、僕は日本橋に住みたくなった」と彼は書いています。

そのサトウハチローですが、佐藤紅緑の長男として生まれながらも、実母を捨てた父への憎しみと反発から非行を繰り返し、落第3回、転校8回、勘当17回、都内の留置場はほとんど入ったことがあるというツワモノでした。恩人である作詞家福士幸次郎の導きで見事更生し、童謡「かわいいかくれんぼ」「うれしいひなまつり」「めんこい仔馬」「ちいさい秋みつけた」など誰もが知っている数々の珠玉の作品を残しました。

尊敬する恩人の葬儀に際してサトウハチローは「先生はのん気だから、三途の川の渡し賃など、用意してないだろうと思います。あとから来るハチローという奴が払うからとおっしゃってください」と恩師への畏敬と愛情に溢れた弔辞を述べています。



▲黄葉した銀杏八幡宮のイチョウ

水天宮

日本橋にある有名な水天宮ですが、人形町にあると思っている方が多いのではないのでしょうか？ 社殿は実は昔も今も蛸殻町にあります。その門前町が人形町通りになっています。この辺りは、^{あやつ}操り芝居や浄瑠璃芝居があって、多くの人形師が住んで、人形を作り売る店が並んでいたの、世間一般が人形町と呼んでいましたが、正式な町名でなく俗称にすぎませんでした。関東大震災後の区画整理によって蛸殻町の一部を人形町という町名に改めました。甘酒横丁を出たあたり人形町1丁目に「蛸殻銀座跡」の説明板があるのは、ここが

以前は蛸殻町だったからです。しかし水天宮は今も蛸殻町2丁目に鎮座しています。



▲水天宮 戌の日の賑わい

水天宮の祭神は4柱、宇宙創造の神天御中主大神と、^{あめのみ なかぬしのおおかみ}安徳天皇を本尊として、母徳子(建礼門院)と祖母時子(二位の尼)を合祀しています。福岡県久留米市の水天宮が総本宮です。参勤交代の折に江戸でも水天宮を親しくお参りできるようにと当時の久留米藩主が文政元年(1818)、芝赤羽根橋の上屋敷内に分社を建立し祀りました。明治4年には赤坂、翌5年に有馬邸下屋敷のある日本橋のここ蛸殻町の地へ移ってきました。

もともと水難厄除けの神様だったらしいのですが、現在ではもっぱら安産祈禱、安産御守「御子守帯」で広く知られ、1月5日の初水天宮、5月5日の例大祭、特に戌の日には安産を願う人々で大いに賑わっています。

江戸遷座200年にあたる平成30年を前に、今年、3年の工事期間を経て震度7にも耐えられるよう免震構造を施した壮麗な新社殿が完成、4月8日以降連日たくさんの参詣客であふれ返っています。

最寄りの駅は東京メトロ半蔵門線「水天宮前駅」ですが、平成2年の開業の前、駅名の決定をめぐる地元住民の間で、銀杏八幡移転の時と同じような駆け引きが繰り返されました。駅の所在地は蛸殻町ですから、駅名も「蛸殻町」とすんなりいくはずでした。ところが隣接する日本橋箱崎町にも駅の先端がかかっており、成田国際空港へのバスターミナル、東京シティエアターミナルが駅と直結しているとして、駅名「箱崎」を強力に主張して巻き返しを

図ってきたのです。結局、双方譲らず決着がつかないうち、漁夫の利を得た格好で水天宮があつさり駅名を頂戴、大きな魚を釣り上げてしまったというわけです。地元にも愛され、昔から「お水天宮さま」と呼ばれ親しまれてきた神社、小さいながらも鎮守の森まで造っていたご利益だったのかもしれない。



▲水天宮参拝の列

有馬小学校 桃屋

蛸殻町にある地元の中央区立有馬小学校は、久留米藩の11代、最後の藩主である有馬頼^{よりしげ}咸の寄付によって創立されたためその名が付けられました。今年で実に143周年を迎える由緒ある学校です。

その有馬小学校のすぐそばにあるのが、三木のり平のCM「江戸むらさき」で有名な、大正9年(1920)創業の桃屋の本社です。六代目尾上菊五郎(音羽屋)は桃屋の花らつきょうが大の好物で、本宅、別宅、歌舞伎座の楽屋にまでいつも備えていたといわれています。この夏、テレビ東京の日経スペシャル「カンブリア宮殿」で、納得するまで商品化せず、ロングセラーを生む会社として紹介されました。村上龍は「ごはんですよ！」のシャレで「桃屋、本当にすごいですよ！」と最後を締めていました。

日本橋蛸殻町、江戸っ子かたぎの意地と意気、古い東京の香りを今に伝える懐かしい町です。

※参考資料

『中央区三十年史』上巻 中央区役所
中央区ホームページ
サトウハチロー『僕の東京地図』

【取材】文・写真・カット：

広報部会・岡本 脩

江戸東京博物館友の会特別観覧会
(平成28年7月8日)

特別展「大妖怪展 土偶 から妖怪ウォッチまで」



7月8日(金)17時から、ホールにて我妻直美学芸員より見どころ解説がありました。

長く日本人に恐れられ、その一方で大いに愛され親しまれた妖怪。国宝や重要文化財を含む美術品に描かれた妖怪の姿を紹介する展覧会とのこと。

第1章、まずは妖怪が大活躍した江戸時代の個性豊かな作品群に圧倒されました。葛飾北斎の「天狗図」から始まり、伊藤若冲の「付喪神図」や繊細な筆のタッチで描かれた高井

鴻山の「妖怪図」などの肉筆画はこれぞ江戸の妖怪と思わせる迫力でした。

次にさまざまな妖怪たちが活躍する物語を描いた絵巻と、妖怪の姿を図鑑のように紹介した作品の数々。特に「化物婚礼絵巻」の不気味なのにユーモラスな引き出物妖怪たちの動きや、産湯に浸かる一つ目の赤ちゃんのかわいらしさ。「針聞書」では病気まで〇〇虫という妖怪じみた形に描かれています。江戸の人々が妖怪に対して強い関心を持っていたことがわかります。人気浮世絵師たち(喜多川歌麿、歌川国芳、月岡芳年など)による錦絵や版本での妖怪たちが大活躍する姿を堪能しました。

妖怪と幽霊は同じ化物の仲間という考えの下、照明を暗く落とした特別コーナーでの幽霊画群に少しぞくっとしました。

第2章、第3章では、日本人が古くから抱いてきた異界に対する畏れの表現について、時代をさかのぼる形の構成で、国宝、重要文化財を含む日本美術の名品が紹介されています。

百年たったら器物も妖怪になる。「百鬼夜行絵巻」(重要文化財)では不

思議なものたちがぞろぞろ歩く姿。「辟邪絵 神虫」(国宝)では巨大化した昆虫のような神虫が悪い鬼を食べまくるという大胆な描写とユーモラスな表情。平安、鎌倉時代の地獄絵や六道図(国宝や重要文化財になっている作品も展示された)の畏れおびえている場面もユーモラスに表現されていることに親しみを感じました。江戸時代の妖怪画に通じているように思われました。

「みみずく土偶」(重要文化財)や「遮光器土偶」はいつもなぜこんな形なのかという疑問が起こりますが、畏れ敬うものは異形のものでなくてはならないのかなとふと思いました。

第4章では、現代の妖怪たち「妖怪ウォッチ」が並んでいました。各妖怪を作成選択する途中で描かれた絵が並べられ、やはり不気味だけれどかわいい姿のものが選ばれていることに納得。私たちが今も時を越えて異形のものたちに心を寄せていることを確信しました。

この展覧会は7月5日から8月28日まで開催されました。

参加者63人。

【取材】文・写真：広報部会・佐藤美代子

江戸博クリップ

米国にありて江戸博を思う

管理課事業推進係 大田 茜 (おおた あかね)

今年の4月より、事業推進係で広報に関する業務を担当させていただいています。今までは知財業界において、外国特許事務の仕事に就いていました。ミュージアム業界での仕事も広報の仕事もこれが初めてですが、マルチタスクが嫌いではない性分が幸いしてか、めまぐるしい毎日に意欲的に取り組んでいます。仕事柄、部署の枠を超えてたくさんの方と関わりを持つことができるのも個人的には嬉しいかぎりです。至らないところも多々ありますが、どうぞよろしく願いいたします。

さて、先日、7月22日から26日にかけてサンフランシスコに出張に行っていました。23日～24

日にわたって開催された「J-POP SUMMIT 2016」という日本文化の総合展示会に江戸博もブースを出展するため、最短の日程で組んだ超・弾丸出張でしたが、早野管理課長と田中事業推進係次席の采配により、両日ともに多くの方にブースへ足を運んでいただき、無事に出展を終えることができました。

江戸博ブースのあるトラベルパビリオンの入口で呼び込みをし、あるいは江戸博ブース内で何人もの来場者と話をしましたが、私の中にある「この館は本当に素晴らしいので、ぜひ来てほしい!」という思いがぶれたことはありませんでした。それはひとえに、学芸と管理、すべての

スタッフの努力に基づく江戸博の「力」を信じていることができていたからだと思います。

自身の所属する組織が提供しているサービスの素晴らしさを心の底から信じていることができ、それを広めるために尽くせるというのは、広報としてとても幸せなことに思えます。来場者の「すごく楽しそう! 絶対行くよ」という笑顔にふれるたび、改めて、江戸博で働くスタッフの営々たる努力に心の中で頭を垂れた2日間でした。

◆このコラムは江戸東京博物館のいろいろな職務の方々に執筆をお願いしています。



会員からの投稿

「神宿る島」— 宗像大社

内山文伸

宗像大社に行ってきました。大社は九州福岡の玄界灘に浮かぶ二つの島に祀られている宮と内陸にある一つの宮を合わせた三宮で構成されています。三宮それぞれに姫神が祀られています。長女神である田心姫神を祀る沖津宮は玄界灘に浮かぶ「沖ノ島」に、次女神である湍津姫神を祀る中津宮は「筑前大島」に、そして三女神である市杵島姫神を祀る辺津宮は本土陸地に祀られ、この三宮を総称して宗像大社といいます。全国に六千余ある「宗像大神・三女神」を祀る神社の総本社でもあります。

玄界灘の二つの島にて祀られているのは長女神と次女神ですが、この長女神を祀る「沖ノ島」が「神宿る島」と呼ばれているのです。島全体がご神体なので何びとも足を踏み入れることはできません。女人禁制であり10日毎に常駐する神職のみが上陸を許されていますが、その神職さえ島に入る前に着衣をとり海中で禊をしてから上陸することが古来より守られています。よって上陸できない「沖ノ島」への参拝は二つ目の島である「筑前大島」にある「沖津宮遥拝所」から行うことになります。ちなみに「沖ノ島」は本土から60km先に、「筑前大島」からは50km先にあります。

今回私が訪ねたのはこの「筑前大島」ですが、「遥拝所」から仲春の霞がかかった彼方に「沖ノ島」を確認することができ、参拝をすませましたが何かしら幻想的な気持ちにもなりました。また宗像大社は全国の弁

天社の総本宮とも云われていますが、多くの弁才天は宗像大社の三女神の二柱である「市杵島姫神」と同一視され祀りの対象となっています。

関東では日本三弁才天のひとつの「江の島弁才天」があります。今回あらためて行ってみました。江の島の場合は一つの島の中で三柱神が祀られていますが、宗像大社と同じく確かに三女神はそれぞれに独立した社に祀られておりました。そして弁才天は「市杵島姫神」を祀る宮の奉安殿(八角円堂)に祀られていました。しかし江の島の場合はその宮が次女神の「中津宮」となっており、宗像大社の三女神「辺津宮」とは異なっていました。全国には多数の弁才天社があります。神仏習合の歴史の中で「市杵島姫神」を主祭神とした神社、また仏教の中で信仰されているものなどが混交したようにも見え、姿・形も多様に変化しております。江の島においては富士山詣、大山詣、そして藤沢遊郭などの影響も多分に受けた弁才天様ではと思われる。色々な角度でもう一度調べてみるのも楽しいかも知れません。

●新サークル・メンバー募集●

◆文士達を巡る会

現在、友の会の見学会や個人での散策においては、多くが江戸時代を対象とした寺社や文化・伝説地を巡る散策となっています。一方で、もっと私たちが身近に感じられる著名な人たち、具体的には近代文学期に活躍した文士達を巡る機会があってもよいのでは、と思いこのサークルを考えました。明治時代から大正・昭和にかけて東京にはいくつかの「文士村」が生まれ、近代文学の黎明期となりました。それらの「文士村」に集まり連帯していた文士達の所縁の地を巡るというものです。もちろん、その中で江戸時代の出来事に関するもの、また歳時的なものも含めていきたいと考えています。

参加ご希望の方、興味のある方は9月末までに事務局宛てに氏名、会

員番号を明記してはがきでお申込みください。実施等説明会は10月後半を予定しておりますが、詳細については折り返し連絡いたします。

<世話人：内山文伸>

えど友 サークルだより

◆落語と講談を楽しむ会

6月21日(火)森川昌子さんと松原良さんの月番。森川さんが三遊亭歌之介を紹介し、故郷鹿児島言葉による独演会DVD2本を鑑賞した。当会OB若松謙二さんが自分の学童疎開体験をNHKBSプレミアム「にっぽん縦断こころ旅」に投稿。放映された番組のDVDを鑑賞した。松原さんによる田辺一鶴のDVD「東京オリンピック入場行進」「妖怪軍談修羅場」を鑑賞した。参加者18人。

7月26日(火)福原実さんの月番で、福原さんの友人の真打・桂米多郎の「たがや」と「井戸の茶碗」を鑑賞した。落語界の裏話で笑わせながら、軽妙に進める古典落語は熟練の味がした。参加者19人。

◆藩史研究会

6月10日(金)辻井清吾さんが「河内国丹南藩」を発表した。丹南藩の藩主は高木氏。元和9年(1623)初代正次が河内国丹南郡丹南村に陣屋を設置し立藩(1万石、譜代、~13代正善)。歴代藩主の事跡や陣屋の様子などについて詳しく説明した。参加者15人。

7月8日(金)村田勝さんが「遠江国掛川藩」を発表した。1590年に山内一豊が掛川城主となり、日本初の木造天守閣を造った。関ヶ原の戦いの後、掛川城には久松定勝が入城。藩主は松平久松家3万石から、安藤家、再び久松家、朝倉家、青山家、松平桜井家、本田家、松平藤井家、北条家、井伊家、松平桜井家、小笠原家6万石、太田家5万石など、譜代8家、家老2家、親藩、外様と次々入れ替わった。参加者15人。

◆「米屋田中家文書」を読む古文書の会

6月9日(木)米屋久右衛門の書いた

明治3年の「町用日記」P 96～107まで読む。町内抱町火消頭取金蔵が祭礼前に支払うべき弁当屋への手付金3両を払っていなかった件に関し、ここは弁当屋の理解を得て地主たちは知らなかったことにすることで内々評議が決着した。参加者8人。

6月24日(金)「町用日記」P 108～116まで読む。参加者12人。

7月14日(木)「町用日記」P 119～134まで読む。期限付の調べ物の期限が守られないと扱所からの叱責に、地主たちは、3月に廃止されるまで勤めていた2人の町年寄に、「町年寄並」として町持ちの費用で再度就任を申し入れるが、2人とも病氣と称し断られる。参加者10人。

7月29日(金)「町用日記」P 134～146まで読む。参加者8人。

◆江戸東京を巡る会

7月10日(日)清澄庭園から靈巖寺、深川江戸資料館を巡った。庭園と資料館ではガイドによる説明があり、作庭のポリシーを理解し、資料館では往時の深川の雰囲気をも十分に堪能できた。参加者36人。

◆『江戸名所図会』輪読会

6月16日(木)菊池真一さんの担当。今回も穴八幡の近隣エリア。高田天満宮は水稻荷神社の末社となって名称も北野神社となっている。高田馬場はその南側に位置していた。面影橋付近には山吹の里伝説がある。高田七面堂はその南側の亮朝院敷地内にあり、本尊七面明神像を祀る。新宿区内では数少ない戦災を免れた寺院で、本堂・七面堂・朝日堂といった江戸時代建築が残っている。参加者14人。

7月21日(木)清水昌紘さんの担当。今回は豊島区側の南蔵院、高田氷川神社、下落合の薬王院や氷川神社などの寺社と、神田川に架かる笈の橋、姿見の橋、右橋、落合土橋など、橋の記述が多く、村絵図や江戸情報地図を使った寺社と橋の位置関係などが詳しく解説された。参加者15人。

◆「落語で江戸散歩」をなぞる会

6月11日(土)今回は打ち上げを兼ねた最終回。まず江戸博1階ホール

で「落語散歩の会 完結記念 落語会」として、みんなで歩いたネタになった落語の中から「道灌」「芝浜」「たがや」の3席を社会人落語家3人にやってもらい、鑑賞した。お客は約100人。場所を移し楽しく歓談、別れを惜しみつつ散会した。参加者68人。

◆日本の大道芸伝承会

6月8日(水)本年11月5日(土)に開催される深川江戸資料館創立30周年記念及び日本大道芸・大道芸の会創立20周年記念イベントへ、応援出演することが決まった。今回は「江戸・東京の大道芸」と銘打ち、これまで演じたことのない日本の大道芸を披露紹介するつもりである。同時に、いつまでも続けられるよう発声練習(外郎売り、がまの油売り)のあと、基礎練習をしっかりとした。参加者5人。

7月13日(水)発声練習(外郎売り、がまの油売り)のあと、各自下記演目を練習した。「絵解 地獄極楽」「わいわい天王」「阿呆陀羅経」「すたすた坊主」「かりんと売り」「玉すだれ」ほか。参加者4人。

◆江戸を語る会

6月25日(土)鈴木修二さんが「浮世絵雑話(2)」の演題で発表した。浮世絵を知るためのキーワード①時代「浮世の絵」②地域「江戸絵」③技法「錦絵」④価格「錦絵1枚16文」⑤心意気「大和絵師」を挙げてどのようなものであったか説明があった。持参の浮世絵を回覧しての詳しい解説もあり楽しんだ。参加者13人。

◆かっぱれの会

6月1日(水)入門曲「奴さん」をお稽古した。2番(姐さん)に入った。参加者4人。

7月20日(水)入門曲「奴さん」の2番(姐さん)をお稽古した。参加者4人。

●各サークルとも引き続きメンバーを募集しております。参加希望の方は、はがきに①サークル名②会員番号(必須)③氏名を記入の上、友の会事務局へお申し込みください。

ただし輪読系の2サークルについては定員に欠員が出たときに先着順で参加いただけます。

館蔵古文書翻刻だより

◆A班『新古改撰談記』

御中間は「目付」配下の役人で、江戸城内の御長屋門、大奥御長屋門、御台所前新土戸などの警備、お使い及び御成の際雑用のために随行し、また出役として中間目付、旗御指之者、御持鎧之者、御馬髪巻役、野方御使之者など多岐にわたった。御中間は15俵1人扶持で御家人として最軽輩であった。その定員は550人前後であり、「五役の者」全体では6000人もいたといわれている。しかし「五役の者」は他の御家人の多くは一代抱であったが譜代の格式が与えられていた。その職務上江戸城内の様子を詳しく知りうる立場にあり、退職した場合でも「目付支配無役」として目付の支配を受けその身分を留保された。

◇参加者：6月2日(木)A班8人。B班8人。6月16日(木)A班9人。B班7人。7月7日(木)A班9人。B班8人。7月21日(木)A班9人。B班6人。

友の会めも(開催日と人数)

平成28年6月～7月

◆役員会6月14日(火)15人。7月12日(火)15人。◆事業部会6月7日(火)20人。7月5日(火)23人。◆広報部会6月21日(火)12人。7月19日(火)10人。◆総務部会6月28日(火)18人。7月26日(火)17人。◆古文書講座 入門編：6月1日(水)午前107人・午後96人。7月6日(水)午前108人・午後99人。初級編：6月15日(水)午前79人・午後64人。7月20日(水)午前76人・午後59人。中級編：6月18日(土)午前44人・午後30人。7月23日(土)午前48人・午後31人。

長年、江戸博物館長として職員のみならず、ボランティア、友の会の皆さんに敬愛されてきた竹内誠館長の退任のお知らせは晴天の霹靂ともいふべきものでした。友の会の皆さんも驚かれたことと思います。6月28日に主にボランティアの皆さんに向けて、その記念講演会が小林淳一副館長の司会で催されました。講演終了後、館職員、ボランティア、友の会各代表より花束贈呈が行われ、その中で友の会初代会長でもあったボランティアの山本市郎さんより感謝とお礼の言葉がありました。



私は相撲教習所で新弟子たちに相撲の歴史を教えています。年3回の卒業式後、理事長をはじめ執行部の親方たちが私ども教師にちゃんこ料理を振舞ってくれ、その席上いろいろな興味深い話が出ます。大正時代の小柄な横綱栃木山は3連覇した後、まだ余力があるのにパツと引退した話。栃木山の一番弟子が栃錦ですが、当時春日野親方で理事長になっていた栃錦から、師匠の栃木山が引退6年後に全日本相撲選手権大会で優勝した話とか、自分が横綱になったとき栃木山から「おいお前、横綱になるのは簡単だけど、辞め時が大切だぞ」と言われたという話も聞きました。栃木山は引き際の名人といわれましたが、弟子の栃錦も同様で、まことに清く爽やかな人でした。

私もその春日野親方から影響を受けました。平成10年第3代目館長になりましたが、3～5年で辞めるつもりでした。しかし凶らずもその機を逸し、20周年の時も辞任かなわず、昨年春のリニューアルで辞めるのが花道だなあと、お願いしました。ところが昨秋、日中韓の首都博物館会議が江戸博であったため延び、今年の3月で、と決まったのですが、今日の評議員会での議決まで公表できず、本日の記念講演はごく小規模なものとなりました。野暮な引き際の迷人でした。去る5月27日の友の会総会の『浅草寺日記の世界』のお話は「私は間もなく辞めます。さよなら」という意味でお話しましたので、友の会の皆さんには一応お別れをしたという気持ちで、今回はボランティアの皆さんにお話をします。

館長になる前、館長補佐としてボランティア導入だった委員長をやった時上野動物園園長の中川志郎さんの話が役に立ちました。一人でいろんな動物の係をやる飼育員より、係

一つのボランティアの方が詳しくなって、逆に飼育員を指導するような弊害が生じた。だから相当覚悟が必要で、例えば学芸員も毎日勉強してボランティアさんに質問されても答えられる体制でないと駄目という話でした。それから昔は博物館は学校教育の補完の役割と位置づけられていましたが、今は生涯学習の拠点です。余暇が生まれて、自分自身を磨こう、人間性を豊かにしたい、そんな思いが博物館でのボランティア活動という時代になった。従ってみんな立場は平等、ボランティアの社会はヨコ社会だと教えていただきました。それで、私は事前研修の際に言いました。「元職をひけらかす人はボランティアに向きませんよ」と。

在任中、来館者の皆さんから感謝の手紙がたくさん来ました。展示案内の方がとても素晴らしかったというボランティアの皆さんへの感謝の手紙が多かった。あの3・11の時、来館者は一旦は両国駅へ行かれたものの電車が動かず戻ってこられ、江戸博で一夜を明かす方が大勢おられました。ボランティアの方がその際、外国の方にTVニュースの内容を外国語で説明したり、そばに付き添ったり、お宅にお泊めになったりという話も聞きました。

平成5年の開館のときは入場者数がすごくて1年間に常設展示が264万7千人、特別展は43万9千人、たても園が24万5千人です。合計すると約333万人。翌2年目は併せて220万人です。その後低迷しましたが、13年度から特別展に力を入れ、これは前々から準備し3年目に花が咲くものですが、18年度は合計207万人でした。ただ予算は年々減らされ当初の半分以下まで下がりました。また職員の数も17年度は当初の60%近くに削減され最悪の事態

で、江戸博の将来を心配しましたが、近年は職員も少し増やしていただき、予算も前年度並みを保っています。入場者数は昨年度並みの180万人を達成できそうで、今は上昇気流に乗っているのが江戸博の状況です。28年3月末までのこの23年間の総入場者数は合わせて39,325,943人です。職員の努力あるいは都庁の理解、コンソシアムの協力、友の会の応援がこういう数字として表れていると思いますが、陰の力として忘れてはならないのはボランティアさんたちのそれこそ献身的な活動です。皆さんの活動は入場者数の量的増大に寄与していただいているのみならず、江戸博の品格、質を高めて下さっていると思います。

私のこの後は、尾張徳川家の経営する徳川林政史研究所の所長として今後も勤めます。また名古屋にありますが徳川美術館の経営にも参画することになりました。尾張の幕末の殿様・徳川慶勝は明治に入って本所長岡町に、さらに横網町に居を移し、明治16年にこの地で亡くなりますが、私が偶然ここ横網町の江戸博に勤務しましたことと、横網町が尾張の殿様の終焉の地であったこととは何かの因縁かと思っています。人というものは何か見えないご縁によって生かされているのですね。

新館長には江戸博の第2ステージとして、私とは全く異なった視点で発展させていただきたいと思っています。在任中はさまざまな方々にお世話になりましたが、今日は特に大勢お見えになっているボランティアの皆さん方に感謝して終わります。本当に長い間ありがとうございました。(大拍手)

【記録】文：広報部会・内匠屋京子
写真：同・福島信一

新館長就任のご挨拶

18年にわたり館長をつとめた竹内誠先生の跡を継ぎ、このたび4代目の館長になりました。

竹内先生は、東京は人形町というその名も高き下町の生まれで、おまけに東京の“鯛焼き界”の元締め的な家の育ちと聞いていますが、私は正反対で、山国信州の戸数70戸ほどの古い村で生まれ育っています。

ディープな下町とディープな山村には通じるところがあるらしく、館の創設準備の段階より長きにわたり指導を受け、また不躰な依頼をしたりして、親しい関係を続けることができたことを嬉しく思っています。

開設当初、館の近くには国技館があるばかりで、他の文化施設に乏しかったのですが、近く「すみだ北斎美術館」がオープンしますし、また、いくつかの文化施設を巡る巡回路の充実も進められています。

さらに、高層マンションが次々に建ち、住民の構成も大きく変わりつつあることは、近くの飲食店に入ってみると如実に感ずることができます。

わが館も、博物館としての歴史は浅いにも関わらず、日本の歴史系博物館の中で確たる地歩を固め、また首都東京の歴史と文化と芸術を展示し伝える施設として、今や無くてはならない存在となりました。

来るべき東京オリンピックに向け、建物の改修と企画展示などにも取り組む計画であり、友の会の皆さまにもこれまで通り、よろしくお願い申し上げます。

江戸東京博物館 館長

藤森照信 (ふじもりてるのぶ)



藤森照信氏 略歴 (東京都公式ホームページ)

生年月日	昭和21年11月21日(満69歳)
学歴	昭和53年 東京大学大学院建築学専攻 博士課程満期退学
経歴	昭和55年 工学博士(東京大学) 昭和57年 東京大学生産技術研究所 専任講師 昭和60年 同 助教授 平成10年 同 教授 平成22年 工学院大学 教授 平成22年 東京大学 名誉教授(現任) 平成26年 工学院大学 特任教授(現任)

えど東京一景

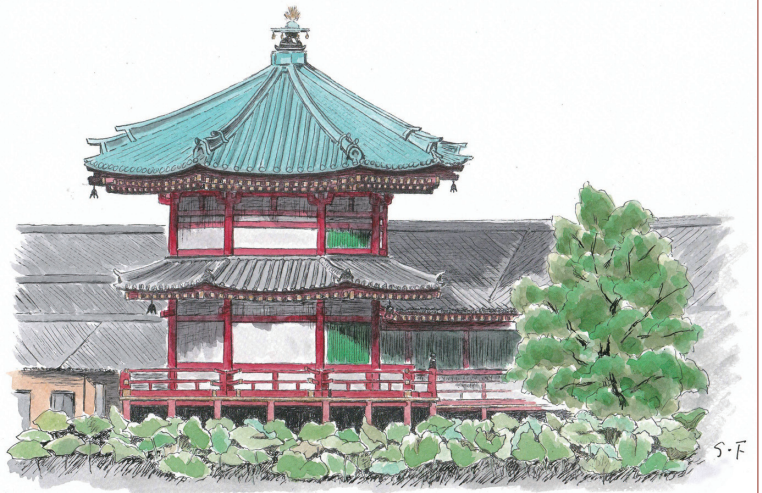
(5) ー不忍池弁天堂ー

七福神めぐりの中で、江戸で一番古いといわれる谷中七福神めぐりは、田端の東覚寺(赤紙仁王)を最初にスタートすると、ここ上野の不忍池弁天堂が締めとなります。

寛永2年(1625)、天海大僧正(慈眼大師)は、西の比叡山延暦寺にならって、東叡山寛永寺を創建しました。不忍池は、琵琶湖に見立てられ、竹生島に因んで、宝蔵寺の大弁財天を勧請し、寛永寺の伽藍の一つとして弁天堂が建立されました。当初、弁天島(中之島)へは小舟で渡っていましたが、その後石橋が架けられて、自由に往来できるようになりました。

弁財天の縁日は巳の日、金運のご利益がある毎年9月の巳の日、秘仏(本尊)が開扉される巳成金大祭には全国から多数の善男善女が参詣に訪れ、正月の初弁天以上の賑わいとなります。ちなみに今年の大祭は9月20日(火)です。

蓮池として有名な不忍池は、江戸時代、人目を忍ぶ男女が密会する場所として多くの出合茶屋がありました。川柳にもたくさん詠われ、「出合茶屋忍が岡はもつともな」「忍ばずの池で忍ぶはこれ如何に」「不忍といへど忍ぶに



いいところ」などと江戸の川柳子の格好の題材となっていました。

また明治17年(1884)、不忍池畔を周回するコースが競馬場として整備され、明治天皇ご臨席のもと第1回競馬が開催されました。そして春と秋の2回、馬券なしののどかなレースが同25年まで毎年続けられました。その華やかな様子は浮世絵にも描かれています。

今や花見シーズンともなると、満開の桜を愛でながら散策する人、ボートを漕ぐカップルや大勢の家族連れで賑わう不忍池ですが、江戸の昔からずっと人々の暮らしを見続けてきた弁天堂です。

【取材】文：広報部会・岡本 脩／イラスト：同・福島信一

花のお江戸を馬が行く

講師 村井 文彦さん（馬の博物館 学芸員）



日本には、人と馬が親密に結び付いた伝統がありました。その伝統は、人馬が暮らしを共にしていたことから生まれたともいえます。今日は、そうした人馬の結び付きを育んだであろう「人馬一体の日本史」を大都市江戸の馬事情を中心にをご紹介します。

弓馬の道

武士道は「弓馬の道」ともいわれます。山本常朝の『葉隠』には、「馬持たぬ侍は侍にてはなし」とあります。これは、侍たるもの自前で馬を養い、乗りこなし、主君に何かあれば乗って駆けつけ、戦うという心構えをいったものでしょう。

平安時代末の保元の乱をもって慈円僧正は「武者の世」の始まりとし、続く源平合戦では騎馬武者が東西に活躍しました。

合戦と騎馬武者

源平合戦で名高い畠山重忠は、鴨越の坂落としの時、愛馬を案じ、馬を背負って下りたという伝承があります。また、その従兄の榛谷重朝は、平泉を攻める時、大きな鉄の釜を持参し、毎日お湯を沸かして馬を洗っていたといわれています。

戦国時代になると、中世を通じて力を蓄えた歩兵の足軽が大きな働きをするようになり、騎馬武者の地位はやや下がっていました。陣形を描いた屏風を見ると、地面に片膝をついた鎧武者の隊列と、後方に離れた「惣馬」の配置が見られ、「賤ヶ岳合戦図屏風」では徒歩で戦う七本槍の面々が描かれています。戦国の騎馬武者は、合戦で命のやり取りをする時、馬から降りていたのかもしれませんが。

一方、『信長公記』では、長篠合戦の際、武田方の上州（群馬県）の武士について「関東衆、馬上の功者」と、馬に乗って戦う様子が書かれています。これらから、東国と西国で騎馬武者の在り方、馬の使い方に違いがあったとも考えられます。いずれにせよ、合戦の時が、最も人馬一体で

あることが必要でした。

新しい馬文化

日本の馬文化は、古墳時代に海外から導入されました。その後、徐々に成熟し、日本固有の馬文化となり、古代、中世、近世ときて、武士を軸に続いてきた人馬の歴史が大きく変わったのが近代の開港のころです。西洋から流入した新しい馬の文化には、①西洋式馬術②西洋式馬具（鞍・あぶみ・はみなど）③馬車④蹄鉄⑤せんば（去勢）などがありました。

日本の馬の特徴

日本の馬は、どちらかという背丈が小さく、約140cm前後で小柄でした。また、西洋人が日本の馬を見て、「あれはなんとという猛獣ですか？」と言うほど荒っぽかったともいわれています。しかし、『江戸名所図会』では、馬は建物の方に頭を向け、人が通る道路にお尻を向けている様子が見られます。馬の目は350度の視野がありますが、はっきりとは見えていません。そのため、後ろから来るものは敵かと思いきや、それゆえ、人が通る方にお尻を向けている日本の馬は、かなり人に慣れていたとも考えられます。

馬の用途

日本の馬は、いわば汎用型の家畜で、農耕にも運搬にも使われることがありました。元禄以前の『榎本彌左衛門覚書』には、「農繁期になると、川越の町人は馬を使った運搬ができなくなるので困る」とあります。田植えの時期には、広い範囲で馬を連れて歩く貸馬も行われていました。また、当時、今の新宿駅の辺りを甲州街道と青梅街道を経て江戸近郊の農村から江戸市中へ出入りする1日の人の数は約2500人でしたが、馬は約4000頭であったと記録が残っています。江戸近郊の「軽き百姓」は、馬を連れて江戸へ稼ぎにくることで、一方、江戸の町は、物資が馬の背を頼りに運ばれてくることで生活を成り立たせていたといえます。江

戸近郊農村と江戸の町は、両方が馬によってつながれ、馬によって支えられていたのです。

馬の行事

日常生活だけではありません。さまざまな行事にも馬の姿が現れています。「賀茂の競馬」や流鏑馬、正月に白馬を見てその1年の邪気を除く宮中の「白馬の節会」のように実際の馬を使うもののほか、七夕やお盆に藁やマコモで馬を作ることや、春駒と呼ばれる馬の人形を作り、歌と踊りで1年の幸いを願うこともありました。

このようにお祭で馬が活躍するのは、宮中や武家にとっては、威信を示す財産という意味合いも強かったと思いますが、より広く、馬が縁起の良いものと思われていたからでもあり、それは日々の生活の中で馬を使い、働いてもらう、共に働いている、ということで培われた馬に対する信頼と共感があったからでしょう。

戦後の馬文化

戦後、高度経済成長期が始まると、馬の時代は終わりを迎えました。しかし、今日なお、競馬は広く注目を集めています。こうした競馬の人気を支えているのは、一つには馬という動物に備わった魅力に加え、人馬一体で歩んできた長い歴史の記憶だと思います。さらに、災害時における馬の利用や馬を介したホースセラピーなど、馬は新たな分野で再び注目され始めています。馬にも心があれば、人にも心がある。そういう心と心の交わりの中で、馬と人の文化というものがこれまでもあり、これからもあるのではないのでしょうか。

レポーターからひとこと

他にも、馬は寂しがり屋だが、自信家で人を馬鹿にしたりするというお話もありまして、昔、全く動かず、動いてもあさっての方向に行ってしまった乗馬体験を思い出しました(笑)。

参加者 113人。

【記録】文・写真：広報部会・田辺友紀子

将軍の印章 —その製作過程と役割・機能を中心に—

講師 西 光三さん (板橋区公文書館 公文書館専門員)



将軍のハンコ

日本がハンコ天国なのは、武家社会でハンコを多用したのが原因の一つです。サインに近い花押や現在の印鑑に近い印判が江戸時代にすでに存在しました。中でも徳川将軍の御印判は将軍発給文書に押印されました。将軍発給文書とは、領知安堵状(新将軍が諸大名に発給する)、御内書(献上される時服などに対する返礼状)、法度(法令)、条目(一般の人々への触書などの法令・規則)を指します。これらが将軍の意志による文書であることの証拠となるのが、御印判が押されて料紙に現れた印鑑で、御威光が可視化されたものといえます。印鑑を表すための印判は発給者の支配力を支えるための重要な装置であり、これを研究することは大変意義があるのです。

製作を担った御印判師

単なる印判を将軍の「威」をまとった御印判へと昇華させたのは、その製作過程にあります。製作を担ったのは特権をもつ御用達町人の一つ、佐々木家でした。平成11年に中央区民有形文化財に登録された「佐々木家文書」(日本橋室町・佐々木印店所蔵)を見ていきます。この史料の年代は、天明8年(1788)から明治元年(1868)にも及び、その内容は由緒書、親類書、御用日記類、印章注文控え、花押及び印章見本など、77点の資料から構成されています。佐々木家は御用達町人の中でも御細工所に所属する御細工所御職人でした。もう一つの御印判師である今津家と1カ月交代で、16日と晦日に御細工所に詰めていました。定式御用として普段は諸大名の印判を作製し、将軍家代替わりに際しては将軍印判御用を担いました。

徳川家慶の御印判製作

12代将軍徳川家慶は、天保8年(1837)9月2日45歳で征夷大将軍となりました。それに先立つ天保7年6月20日に、佐々木家7代目当主圓蔵に新将軍家慶の御印判製作が命じられました。当主にとっても生涯に一度あるかどうかの晴れの舞台です。

第1段階は御試御印の製作です。印面の大きさ一寸五分六厘(約4.7cm)、長さ四寸(約12.1cm)の柘植で作られた御本印の木型、つまり印面の大きさを確定するための木製試

作印面です。印面の周辺のみでまだ文字は彫られませんが、「毛式筋ほど小さく」のようになんか細かく指示されています。木型は自宅で製作され出来上がり次第、江戸城中御細工所御細工頭のもとに持ち込まれました。

第2段階は御試御印下地とって、御試御印の印面の形状に合わせて印判全体の形状までを象牙で製作する本印の試作です。御試御印が大きさに相違なしと確認されると御右筆に回され、先代将軍が用いた御本印の形状が御右筆から伝えられました。大きさは一寸五分八厘(約4.8cm)、長さ二寸二分七厘(約6.9cm)と記録されています。その後、御納戸方から象牙が下げ渡され、作業場は御細工所が使用していた御多門(櫓)内に移りました。

第3段階は御試之御判とって、印面の試し彫りです。御試御印下地について高評価を得て、弟子二人を

連れて作業場である御多門で御試之御判の彫刻作業にとりかかりました。この段階で、初めて印面に文字が彫り込まれますが、まだ将軍の実名は彫られず、この試し彫りが完成すると再び右筆方へ回され、沙汰を待ちます。ここで象牙の選定に時間がかかったようで、次の段階に進むまで1カ月ほどかかっています。

第4段階でやっと御本印の製作が始まります。作業場は引き続き御多門で、まず彫り込む文字について伺いが立てられた上で御本印の下地の製作に取り掛かります。将軍の実名「家慶」の印章が伝えられたころ、御本印下地が完成しました。ここで最後の作業場である江戸城本丸柳の間に移り、御印章を写しとり御本印の印面に彫刻がなされます。なお、圓蔵は、柳の間に入るために「美作」の国名を名乗る許可まで得ています。御本印が彫り上がると目付立ち合いのもと封印、側衆に預けられ、翌日御見分に回されます。2人の目付に加え御細工頭、老中、側衆立ち合いによる御見分で、滞りなく御用が済んだことが確認されました。これで3カ月かかった佐々木家の御用は無事に終わったのでした。

製作過程から見えてきたもの

将軍の「威」をまとった御印判にするための重要な要素が三つ含まれています。一つは御印判にふさわしい印材として高品質の象牙の選定、二つ目は奥右筆や御細工頭ら限られた幕臣のみが形状を知りうることによる唯一性、三つ目は継承される将軍の御印判としての同型性です。また、作業場所が自宅作業場にはじまり最終工程では五位の外様が登城の際に控えの間として使う柳の間へと移っていく点は、製造工程を経て、御印判が「威」をまとったことを如実に表しています。

レポーターからひとこと

最近では印鑑が必須である場面は少なくなってきました。しかし、まだ皆無ではありません。ハンコ主義の歴史的な背景を知って、将軍の御印判のように唯一性を確実にした印鑑を私たちが持てるわけがないことを考えると、ハンコってなんでしょう、と改めて問い直したくなりました。

参加者 124 人。

【記録】文・写真：広報部会・大橋弘依

【長青山梅窓院から筈橋】



長谷寺の十一面観世音

前回に引き続き青山霊園の周辺を巡ります。歩いたのは6月下旬から7月上旬にかけての梅雨の晴れ間でした。

長青山梅窓院から青山海蔵寺

東京メトロ外苑前駅南側出口の階段を上ると、目の前が長青山梅窓院の参道です。両側の竹林には灯籠・石塔・水鉢などが点在していますが、頭巾と前掛けをした可愛いお地蔵さんがひときわ目を引きました。山門(不老門)をくぐると、右手には美術館と見まごうようなガラス張りの本堂棟が建っています。1階の奥には壁に埋め込まれるように観音堂が設けられており、泰平正観世音菩薩像が安置されていました。この寺は美濃郡上藩青山家の菩提寺で、墓地にある青山家代々の墓には初代幸成以下13代の当主が葬られています。また墓の前には水琴窟があり、清涼感あふれる音が楽しめます。隣接する青山霊園は元の青山家下屋敷で、江戸後期には周辺の広い地域が青山と呼ばれるようになりました。

なお図会では東隣の百螺山鳳閣密寺真言教院と西隣の心見観音も取り上げられていますが、それぞれ廃絶・移転しています。

青山通りを渡り、神宮球場へ向かうスタジアム通りを左に入ると熊野通りになります。直進すると青山の鎮守である熊野権現社(現青山熊野神社)の森が見えてきます。鳥居のすぐ後ろには茅の輪が設けてあり、くぐり方や由来の説明板が出ています。私も作法通りにくぐって本殿にお参りしました。

キラー通りに出て青山通りに戻る

途中に青山海蔵寺の山門があります。全体が朱塗りの楼門で遠くからでも目立ちます。中に入るとそこにあったのはマンション。よく見ると2棟の中央の渡り廊下と思ったのが本堂でした。今回はお寺のイメージからかけ離れたところが多いようです。

南命山善光寺から渋谷長者の墳墓

青山通りを表参道方向へ進むと、右手には信州善光寺の別院、南命山善光寺があります。山門は表から見ると仁王門、裏から見ると風雷神門という造りになっていました。本堂は戦後の再建ですが、やっと本堂らしい本堂(?)に出会えた思いです。境内には青山の地で最期を遂げた蘭学者・高野長英の碑があり、肖像が浮き彫りになっています。碑の横には鉢植えのハスが大きな花を咲かせていました。



▲長谷川雪旦 筈橋

外苑前方向へ戻り、歩道橋の先を右に折れると長者丸通りに入ります。通りの南側にあった長者ヶ丸という地名に由来するもので、図会には応安(1368~75)のころまで富農であった渋谷長者の居住地であると書かれています。一方、通りの中程にある船光稲荷神社は渋谷長者が寛文2年(1662)に勧請したと伝えられ、長者丸稲荷とも呼ばれていました。何と300年の開きがありますが、真偽のほどは分かりません。さらに進んで右曲がりの下り坂となる辺りが松前家下屋敷の跡で、図会ではこ

こに渋谷長者の墳墓があったとしています。

青山陸橋をくぐり右手の立山墓地に沿って進むと、根津美術館の脇から下る姫下坂(北坂)と合流します。姫下坂の名は、芝白金長者の息子と渋谷長者の娘が恋に落ち、娘が坂の先にある筈橋まで歩いて密会したという伝説によるものです。

普陀山長谷寺から筈橋

図会の順序とは逆になりますが、坂の途中から脇道に入り、普陀山長谷寺に先に寄ることにします。山門を入った右手に観音堂(圓通閣)があり、本尊の十一面観世音(麻布大観音)が祀られています。戦災で焼失したため昭和52年(1977)の再建ですが、高さ約10mの立ち姿は迫力満点です。訪れた時には、数名の方がお参りされていました。墓地には洋

画家・黒田清輝、歌手・坂本九などの墓がありますが、特に喜劇俳優・榎本健一(エノケン)の墓前にある「喜劇王エノケンここに眠る」と刻まれた石碑が印象的でした。

六本木通りを渡って下るのが筈坂で、西麻布交差点の手前を右に入った通りは、かつて筈川の流れていた所です。途中、右手から下る牛坂下に筈橋が架かっていました。牛坂は中世以前からの古道で、牛車が往来したことによる名前です。筈橋の挿絵には牛車はありませんが、米俵を背負った牛が橋を渡る様子が描かれています。元はなかった欄干が明治33年(1900)に付けられますが、大正末期に川が暗渠となったため、橋は消滅しました。

しかし、明治2年から昭和42年まで南青山から西麻布にかけての地域が麻布筈町という町名であったため、「筈」のつく場所や施設が多数残っています。外苑西通り沿いにある筈公園もその一つで、園内には筈町や筈橋の由来を記した案内板が立てられています。ここから東京メトロ広尾駅に出て、帰路につきました。

【取材】歩いた人(文・写真とも)：

広報部会・菊池真一
(えど友ホームページに地図と写真レポートが掲載されています)

催事案内

古文書講座

◆9月から第2期を開講

すでに申込は締切っておりますが、9月から下記日程で第2期を開講します。

◆入門編

- 講師：田中潤さん(学習院大学非常勤講師)
- 開催日：9/7(水)、10/5(水)、11/2(水)

◆初級編

- 講師：安藤奈々さん(学習院大学大学院史学専攻)
- 開催日：9/21(水)、10/19(水)、11/16(水)

◆中級編

- 講師：吉成香澄さん(豊島区教育委員会文化財保護専門員)
- 開催日：9/24(土)、10/22(土)、11/19(土)

● 時間：各講座とも

午前の講座は10時30分～12時30分

午後の講座は14時～16時

- 会場：各講座とも江戸博1階会議室
- 参加費：各講座とも全3回1,500円(初回一括払い)
【企画担当責任者】宮 俊(事業部会)

友の会特別観覧会

●特別展 「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」

◆「日出づる国」に魅せられた男、シーボルト。彼は万国博覧会より早く、ジャポニズムにも先駆け、19世紀半ばのヨーロッパにおいて日本博物館を構想し、その実現に生涯をかけました。彼が日本に何を感じ、どう見せようとしたのか、150年を経た今、再構成されます。

- 開催日時：9月16日(金)
17時～17時30分：見どころ解説 小林淳一副館長
17時30分～19時：特別展示室自由観覧
- 申込締切：9月8日(木)必着
- 会場：江戸東京博物館・1階ホール/1階特別展示室
- 定員：200人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)
【企画担当責任者】玉木達二(事業部会)

友の会セミナー

第169回「幕末～明治期の深川」

講師 龍澤 潤さん(深川東京モダン館副館長)

◆隅田川東岸に位置する深川は、元禄期には町場化して、巨大城下町江戸の物流を支える地域として位置づけられます。また永代寺の門前町としても賑わい、料理茶屋や辰巳芸者はこの地域を語る上では大きな存在でありました。今回は、この深川地域の幕末～明治の様相について考察していきます。具体的には、幕府の越中島訓練場や深川の大木屋敷の内実を踏まえつつ、その敷地が明治期にどのように利用されていくのかについて見ていきます。

◆講師略歴：りゅうさわ・じゅん

東洋大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学。江東区中川船番所資料館、江東区文化財専門員を経

て現職。専門は日本近世近代移行期の地域社会。主な論文に「小名木川の成立と中川番所」『市場史研究』28(2008年)、「町村合併と地域意識 一昭和七年城東区成立を素材として」『江東区文化財研究紀要』16(2009年)など。

- 開催日時：10月15日(土) 14時～15時30分
- 申込締切：10月3日(月)必着
- 会場：江戸東京博物館・1階ホール
- 定員：200人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)
【企画担当責任者】川上由美子(事業部会)

第170回「公儀の庭・浜御殿の変遷と役割」

講師 工藤 航平さん(東京都公文書館専門員)

◆東京の名所として、国内外から多くの観光客が訪れる浜離宮恩賜庭園。かつて徳川将軍家の浜の御殿として造営されました。ただ、単なる娯楽の場ではなく政治の場、つまり「公儀の庭」として機能させています。増改築が繰り返され、現在とは全く異なる姿を見せていた浜御殿。いったい幕府はどのような役割を期待し、その姿を意図的に変えたのか。具体的な様相について、さまざまな文字史料や絵画資料を用いて探っていきます。

◆講師略歴：くどう・こうへい

総合研究大学院大学博士後期課程修了。博士(文学)。現在、東京都公文書館専門員、学習院女子大学非常勤講師。専門は日本近世史、地域文化史。「日本近世における地域意識と編纂文化」(『歴史評論』第790号)、「近世後期の小平における地域文化の生成一名所・金橋桜花と地域文化一」(『小平の歴史を拓く』第5号)など。

- 開催日時：11月12日(土) 14時～15時30分
- 申込締切：11月2日(水)必着
- 会場：江戸東京博物館・1階ホール
- 定員：200人 同伴者可(はがきに氏名連記)
- 参加費：会員500円・同伴者600円(当日払い)
【企画担当責任者】宮 俊・瀬谷葉子(事業部会)

見学会

定番・江戸城周辺探訪 ーその1(本丸)ー

◆この企画は、以前に実施しました江戸城周辺探訪シリーズを定番化したものです。天下人の居城である江戸城。諸大名に命じられた天下普請では戦国期の築城術の粋が集められました。敵の侵入を食い止める深い堀、そそり立つ石垣、桔橋、枳形門、豪壮な櫓。さらに、壮大な天守と城内を埋め尽くす殿舎群などです。今回は大手門から入城し、本丸、二の丸、北桔橋をへて竹橋門までを散策し、強大な幕府体制が創り出した近世日本最大の城郭とそこに君臨した天下人たちの政権をしのびます。所要時間は約3時間、東京メトロ東西線竹橋駅で解散となります。

- 開催日：10月2日(日)受付後順次出発 時間厳守
- 受付開始：12時15分 受付終了：12時45分
- 集合場所：JR「東京」駅丸の内北口 改札出口
- 申込締切：9月22日(木)必着
- 定員：150人 同伴者可(はがきに氏名、住所、電話番号連記)
- 参加費：会員、同伴者とも500円(当日払い)
【企画担当責任者】山本 隆(事業部会)

会員優待のお知らせ

バスツアー 「恵林寺と甲府の歴史を訪ねて」

◆夢想国師の開山で武田信玄ゆかりの寺。また、快川和尚の「滅却心頭火自涼」でも有名な恵林寺は広大な境内で見どころいっぱい。現地ガイドの案内で見学します。昼食後甲府へ移動し、武田神社(躑躅ヶ崎館跡)と舞鶴城公園(甲府城跡)を現地ガイドの案内で廻ります。今回は歴史散策後のお楽しみとして現地ワイナリーの見学・試飲も企画しました。秋の甲州路をお楽しみください。帰着は、江戸博に18時30分ごろの予定です。

- 開催日時：10月12日(水) 7時30分集合、8時出発
- 集合場所：江戸博北側入口 レストラン前
- 申込締切：9月28日(水)必着
- * 定員を超えた場合は、消印先着順とさせていただきます。
- 定員：120人(バス3台) 同伴者1人可(はがきに氏名、住所、電話番号連記)
- 参加費：会員7,000円(拝観料、昼食代、ガイド料含む) 同伴者7,500円
- * 参加費は前納(参加申込者に振込先と期限を通知します)。
【企画担当責任者】 宮 俊・林 正信(事業部会)

広重『名所江戸百景』周辺探訪 -その15(亀戸・向島 周辺)-

◆広重『名所江戸百景』は、安政期の江戸の四季、風景、風俗などをこまやかに描いた作品です。この企画では、広重が描いたと思われる場所とその周辺を探訪し、今の街の姿の中に江戸時代の風景、背景を思い浮かべ、そこに吹く風や情景を少しでも感じていただこうとするものです。今回は、亀戸周辺を巡り業平橋を経て曳舟まで歩きます。亀戸天神は梅より藤の方が有名でした。その満開の藤棚を赤い太鼓橋の下から描いた広重「亀戸天神境内」絵や、亀戸天神の近くにあった梅屋敷内に、白梅が満開の中、臥したる龍のような臥龍梅を前景に大きく描いた広重「亀戸梅屋舗」絵などを訪ねます。所要時間は3時間半、京成押上線曳舟駅で解散となります。(今回、他に訪ねる広重の作品は、「吾嬬の森連理の粹」「柳しま」「小梅堤」「請地秋葉の境内」です。)

- 開催日：11月6日(日)受付後順次出発 時間厳守
- 受付開始：12時15分 受付終了：12時45分
- 集合場所：JR総武線「亀戸」駅 北口改札出口
- 申込締切：10月27日(木)必着
- 定員：150人 同伴者可(はがきに氏名、住所、電話番号連記)
- 参加費：会員、同伴者とも500円(当日払い)
- 【企画担当責任者】 山本 隆(事業部会)

催事のお申込方法

- ◆普通はがきに、
- ①催事名(略名可)・開催日
- ②会員番号(必須)
- ③氏名(同伴者連記)
- を明記して下記の「友の会事務局」へ。

会報<えど友>第93号

平成28年9月1日発行(奇数月1日発行)
編集・制作：江戸東京博物館友の会広報部会
E-Mail: edo_tomo_koho@yahoo.co.jp

発行人：畠中 勇(会長) 編集長：中村貞子
岡本 脩、福島信一、内匠屋京子、佐藤美代子、前田太門、菊池真一、竹中祐見子、光田憲雄、大橋弘依、田辺友紀子

発行：江戸東京博物館友の会
〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 電話 03-3626-9910

特別展 「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」

会 期：9月13日(火)~11月6日(日)
会 員：一般700円、65歳以上350円、大・専門生560円
同伴者：一般1,120円、65歳以上560円、大・専門生900円
* 高校生、中学生、小学生は65歳以上と同じ。
●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

次回予告

特別展 「戦国時代展 A Century of Dreams」

会 期：11月23日(水)~1月29日(日)
会 員：一般670円、65歳以上340円、大・専門生540円
同伴者：一般1,080円、65歳以上540円、大・専門生860円
* 高校生、中学生、小学生は65歳以上と同じ。
●(注)割引を受けられる同伴者は1人だけです。

企画展のご案内

伊藤晴雨 幽霊画展 山岡鉄舟と江戸無血開城

好評開催中!

会 期：8月11日(木)~9月25日(日)
会 場：常設展示室 5F 企画展示室

市民からのおくりもの2016

会 期：10月15日(土)~12月4日(日)
会 場：常設展示室 5F 企画展示室

休館日

9月							10月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3							1
4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8
11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15
18	19	20	21	22	23	24	16	17	18	19	20	21	22
25	26	27	28	29	30		23	24	25	26	27	28	29
							30	31					

- ◆申込は、催事ごとに会員1人1通。
- ◆友の会へのご意見・ご要望があれば記入してください。
- ◆申込先：〒130-0015 東京都墨田区横網1-4-1 江戸東京博物館「友の会事務局」
- * 「えどはくカルチャー」など江戸博への申込とは違います。
- * お申込いただきますと、「受講票」をお送りします。当日ご持参のうえ、受付で登録してください。
- なお「受講票」は逐次お送りするのではなく、申込締切数日後一斉にお送りしますので、それまでお待ちください。
- * いずれも申込多数の場合は抽選となる場合があります。
- * 「受講票」未着のお問合せや参加予定変更の連絡などはなるべく事務局員出勤の火曜日から金曜日(10時~12時、13時~17時)にお願いします。
- * 「受講票」がないと受講できません。必ず事前に申込をしてからご参加ください。